

ほっこりだより

第65号 2013年6月2日 発行

東向日キリスト教会

京都府向日市森本町下森本6-5

Tel: 075 (931) 5934

http://www.h-mukou-ch.jp/

Deai

全てを益とされる神

◎八重の兄覚馬との再会。

NHKの大河ドラマ「八重の桜」が放送されています。山本八重は一八六八年会津城下になだれ込んできた新政府軍に対して、男装し、新式の銃で果敢に戦いました。

しかし、軍力に勝る政府軍によって一か月後に敗れ、会津城の落城と共に、米沢に落ち延び、貧しい生活を送ります。しかし、一八七一年に兄覚馬から生きて京都にいるという知らせが届きました。死んだと思っていた覚馬からの知らせに、夢かとも度も手紙を確かめたことでしょう。

実は、覚馬が近代的な見識を持っていることを西郷隆盛等は認めて処罰を止めました。やがて京都府の顧問に登用されていたのです。八重たちは兄を頼って京都に移ります。

◎覚馬とキリスト教の出会い。

覚馬は一八七五年にゴードンという宣教師に出会い、一冊の本を贈られます。その本は「天道遡源」(てんどうさげん)といい、中国で長年宣教した米国の宣教師マーティンが書いた漢文のキリスト教の書物でした。目の不自由な覚馬は人の手を借りて熱心に読んだのです。後に彼は次のように述べています。

「この本は長年の疑問を解いてくれた。兵学や法律では人の心を入れ替えることはできない。見えないところで悪事を働く。しかし、この教えに明るい光が見えた。」

その後、覚馬は洗礼を受け、キリスト者になります。覚馬は八重にも聖書を学ぶことを勧め、ゴードン宣教師のもとで英語と聖書を学びます。そして、このゴードン宅で八重と新島襄は出会いになります。

新島襄は留学先のアメリカより戻り、キリスト教主義の学校を設立することにまい進していた時でした。すでに覚馬と襄は知っており、京都府顧問の立場で学校の設立に協力します。当時はまだキリスト教に対して反感を持つ人々もあり、並大抵のことではなかったのです。覚馬の奔走もあり、ついに実現するのです。

◎八重と新島襄の出会いと結婚。

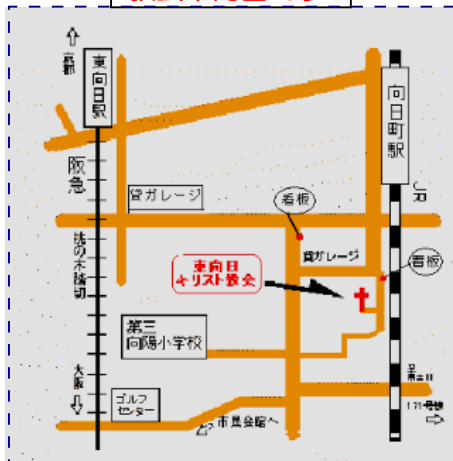
そつした中で八重は襄と出会ったのです。すでにクリスチャンとなった八重は襄と結婚します。日本で最初のキリスト教式の結婚式でした。二人は洋装だったと伝えられています。

八重は二十九歳、襄は三十二歳でした。武士の娘として生まれ育った八重が死線を越えて生き延び聖書に触れ、覚馬が「天道遡源」という書物を通してキリスト教に出会いことがなければ、二人の結婚もまた、京都に同志社大学の設立もなかったことでしょう。

「神を愛する人々、すなわち、神の御計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益として下さる。」聖書



教会案内図です



俳句

すみれ咲きふと立ち止まる土手の道
雨上がり角を伸ばしたかたつむり
Y子

豆飯や夫(つま)に沢山豆よそつ
蒲公英(たんぽぽ)のかたき地面に
生まれつき
古都葉

短歌

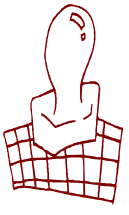
もう一度たべたいけれど食べられぬ
母の漬けたる茄子の一夜漬け
卒業の子の帰り待つ我が胸に
波押しよせる幾多の思い出
古都葉

人生の海の嵐を超えて今...

私は、この四月で八十二歳になりました。福井県で生まれ、若くして大阪に出て働きました。何度か職を変えて、京都に移り、着物の染色関係の仕事などをしてきました。

結婚して家族を支える中で胃を全部、摘出する大きな手術をしました。やがて。この町に移りました。以前から妻がキリスト教の教会に行っていました。自分勝手に別な新興宗教に関わり、救いを求めました。

しかし、ある時、妻の行っている教会で餅つき会があり、昔の経験を生かして手伝って欲しいと突然頼まれました。嫌と断ることも出来ず、餅つきを手伝ったことから、教会に行くようになりました。それから約十年、頑固な私は、毎週、欠かさず行っただけです。



その間、関わっていた新興宗教のおかしな教えに納得できず、足が遠のきました。これまで教会に通う中で、体が弱って、病院の中で洗礼を受けるのではなく、元気なうちに教会で洗礼を受けてクリスチャンになりたいと、心に示されたのです。

今年の元旦、遠方から子供たちも集まった時、自然と「わしは洗礼を受けて、クリスチャンになる。」と宣言しました。神様が後押しして下さいたのでしよう。

体力も落ちて、何か働くことはできませんが、まだまだ、頭と口は達者ですので、これから一緒にお願ひします。教会の信仰の家族としてこれから、よろしくお願ひします。

これまで、色々な人生の嵐に遭いましたが、新しいのちをいただいで、今、ようやく安心できる港に着くことができました。ずっとそばで祈ってくれていた妻に感謝します。私の好きな聖書のことばを紹介します。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことについて感謝しなさい。」
— 1・WR

ゴスペル・ミュージック

「ゴスペル」という言葉を良く耳にします。このゴスペルの意味は「グッド・スベル」と言われ、「良い知らせ」を意味します。つまり福音であります。聖書の中には、百回以上使われています。簡単に言いますとイエス・キリストが救い主として誕生されたことがゴスペルです。

その後、アメリカで発祥した音楽の「ジャンル」となり、「ゴスペルミュージック」と呼ばれます。

アメリカの黒人霊歌と従来の讃美歌などが融合して現在のゴスペルの基調となっています。後にジャズやロックなど様々なジャンルと結びついて、今も進化を続けているようです。

当教会では、時々ゴスペルを歌って楽しむ時を持っています。今年、

**七月十四日(日)
午前十時半から十二時**



礼拝の中で、ゴスペルが歌われます。今回、ギターに加えて、三味線や太鼓という和楽器でゴスペルを楽しみたいと思います。因みに聖書の世界では古くから立琴や十弦の琴、ラッパ、角笛などが用いられ、手を打ち鳴らして喜び歌ったと書かれています。ぜひ一度ご来場ください。

アメージング・グレース

「驚くばかりの 恵みなりき
この身の汚れを 知れるわれに」

